



# 水戸ユネスコだより

【第 2022-1 号】2022年 3 月 15 日

【編集・発行】水戸ユネスコ協会(Mito UNESCO Association)

事務局 〒310-0852 水戸市平須町 1828-660 林 方

TEL&FAX 029-241-7803

## 困難な中でも続けたいユネスコ活動

水戸ユネスコ協会 会長 林 和男

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、一昨年に続き、本年度の定期総会も書面による議決になってしまいました。これまで、感染の拡大に伴い、複数回、緊急事態宣言の発出・まん延防止重点措置の適用対象地域になり、私たちの生活や仕事、行事の全てにわたって大きな影響を及ぼしています。

しかし、このような困難な状況の中でも私たち水戸ユネスコ協会は、ZOOM を活用したリモート会議を開き、陽性者数が落ち着いた時期には、感染しないように最大限の対策を取りながら対面による活動を進めてまいりました。

リモートでは、会員の館山さんを講師に、「水と環境・SDGs」等をテーマに 2 回の研修会を開きました。さらに、昨年 10 月 3 日に、「聖心女子大学グローバル共生研究所グローバル共生ワークショップ」に水戸ユネスコ協会としてオンラインで参加し、国際理解について視野を広げる機会となりました。

また、昨年中止した「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」水戸地区絵画展は、市内の小中学校の協力のもと、常陽銀行本店ロビーにて無事展示会を開くことができました。さらに、昨年度に続き SDGs をテーマとした「梅染めプロジェクト」も歩みを止めることなく、水戸市国際交流センターにおいて梅染め展示、同センター主催の「外国人を対象とした梅染めワークショップ」や、水戸市観光コンベンションの依頼による「文化体験モニターツアーの梅染め体験」の講師をそれぞれ会員が務め、参加者の皆様より好評をいただいております。

昨年の 2 月に開催した、茨城新聞社みと・まち情報館での梅染めの展示会は、本年も 2 月末から同所で開催の予定で、十分な感染対策をとりながら実現したいものです。

コロナ禍の収束が見えない困難な状況が続いております。私達は医療関係者をはじめとする全てのエッセンシャルワーカーの皆様の尊い努力を常に念頭に、民間ボランティアとして他者のためにこれからも活動してまいりたいと思います。

### ユネスコ憲章

- ◎心の中に平和の守りを固めよう
- ◎全ての人間の尊厳を重んじよう
- ◎教育・科学・文化の発展に努めよう
- ◎民族間の疑惑と不信をのぞこう
- ◎世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

(国際連合 UNESCO 憲章前文より抜粋)

### 連絡用 LINE について

これまで通り E メールを主としつつ、簡単な情報交換は LINE グループを利用します。後者には、日常的な談話等に用いる「水戸ユネスコ協会」と、定例会や諸イベントの周知等のための「水戸ユネスコ協会【連絡用】」があります。イベントの日時等を確認する際に「【連絡用】」をご覧ください。そのため恐縮ですがこちらには「分かりました」「よろしく願います」といった挨拶はご遠慮くださいませ。これらを使用しない会員には定例会案内ハガキをお送りしています。予定が直前に変わることがあるので、参加頂ける場合は事務局にお電話を下さるよう記載しています。事務局の至らない点につきましては、会員間の相互の連絡をよろしくお願いいたします。

工藤 駿

## 「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」水戸地区絵画展

昨年度はコロナ禍のため、やむなく中止した絵画展でしたが、本年度は水戸市内の小中学校のご理解・ご協力をいただき、当初の予定通り、12月21日から28日にかけて、常陽銀行本店ロビーにおいて開催することができました。昨年の4月以来、各学校はリモートによる授業が中心になり、図工・美術の時間がほとんど持てなかったそうです。このような事情もあり、児童・生徒の皆さんの応募点数は、例年の3分の1に減りましたが、市内にある文化財や、風景・自然環境のすばらしさを改めて見つめ直し、それらを未来に引き継ぐという趣旨に合った作品が多かったようです。

今回は、応募作品に作者からの一言を添えていただき、同時に、本協会からの講評を併せてカードにして、作品の横に掲示しました。作品と作者の思いを同時に見ていただける、この展示形式は来場された方からも好評でした。

最後に、コロナ禍の中で作品の審査・作品受領のための学校訪問にあたっていただきました会員の皆様のご協力に深く感謝いたします。

林 和男

## 「梅染め」について

「梅染め」は水戸ユネスコ協会活動の一環として、2019年10月に始めています。偕楽園剪定の紅梅枝を煮て染色液を作ります。染めた布等を身近な小物に作り、活用する試みです。

2019年は梅染めについて学び、実際に染めを体験。2020年は型染めや絞り染めをしました。2021年2月に今迄の過程を「茨城新聞社みと・まち情報館」で発表し、作品を展示しました。来場者には感想をいただきました。梅染めた生糸で組紐飾りを作り、梅娘に贈る提案もありました。

6月に水戸二高生・教職員対象の梅染め研修会、7月に智学館中等教育学校での梅染め講座。11～12月は染色の工夫等の中間活動報告を市国際交流センターロビーに展示。2022年1月は外国人対象の梅染めワークショップ、水戸観光コンベンションモニターツアー梅染め体験。各々の催しは会員がゲスト講師を務め、梅染めの手順を参加者に判り易く伝えました。作品展示と発表は今年も昨年同様、「茨城新聞社みと・まち情報館」で行う予定です。

志田 美智子



## ユネスコスクール智学館中等教育学校の活動

今年度もユネスコスクールとして毎週の探究学習の時間に中学2・3年生と活動してきました。今年度は去年度に引き続き、偕楽園の梅の枝を使った草木染めに取り組みました。

7月には林氏・志田氏に梅染めの講師として来校していただくことができました。生徒たちは大鍋で一から梅染めをするのは初めてということもあり、真剣に楽しく体験をしていました。また、偕楽園の魅力を伝えられるようになるために、林氏に頂いた資料をもとに偕楽園の歴史を学習したり、現地での散策を通して、理解を深めたりしていきました。

現在は、水戸ユネスコ協会の主催する「みと・まち・情報館」での展示に向けてコロナ禍でもできる体験をコンセプトに、自宅でできる梅染め体験キットの製作に励んでいます。その中ではハンカチ等の布製品だけでなく、和紙を用いたものの製作についても試行錯誤を重ねています。

五十嵐 蓮

# 環境学習会について

水戸ユネスコ協会では、毎年1回、環境学習会を開催することになっていますが、令和2年度はコロナ禍で何度も延期となり、結局、一度も開催できませんでした。このため、令和3年度は開催方法を工夫し、定例会（主にオンライン）で3回、聖心女子大学のオンラインワークショップを1回の、計4回開催することができました。

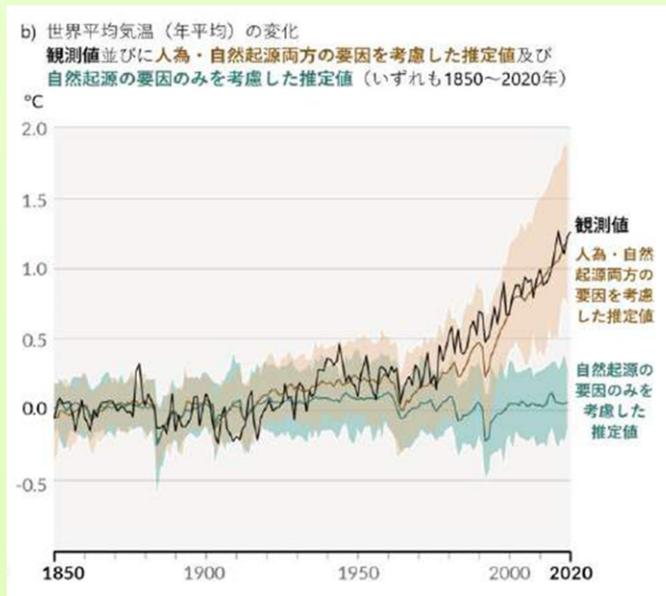
本年度は、ユネスコからESD for 2030に関するベルリン宣言が発表されたり、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）から第6次評価報告書が公表されたり、国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）がイギリスで開催されるなど、環境問題については話題の多い一年でした。

環境学習会では、そのような時事的な話題にも触れつつ、SDGsの基本的なこと、気象変動対策をなぜ急がなければいけないか、日本人は余り意識していない水問題について等、身近な生活に潜んでいる多くの課題について、一人一人が問題意識を持てるように勉強してきました。また、ワークショップでは水没が危惧されているキリバスについて意見交換をしました。

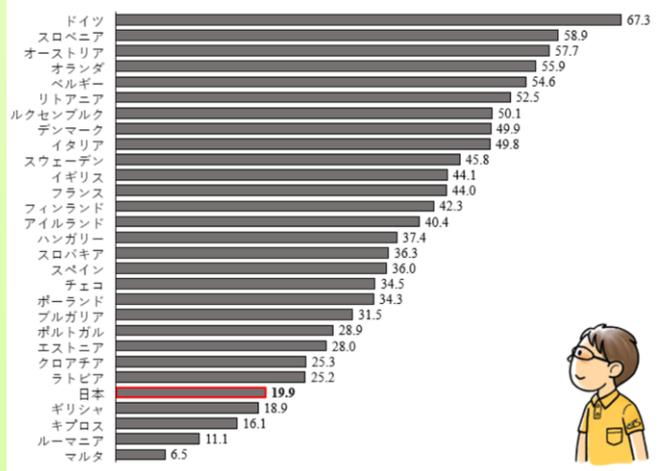
最近、ニュース等でも報道されていますが、日本の環境政策に対する国際的批判が高まっていると言われています。日本と海外での意識や考え方の違いの原因についても理解が必要です。日本で使用されている統計と国際統計の集計方法が違う場合があること、気象変動に対する深刻さについて国ごとに温度差があること等が原因の一つであると考えられます。それらの違いを理解するには、ニュースや政府の発表だけではなく、多様な情報を収集しつつ、一人一人が自分の将来の問題として考えていくという姿勢が大切なのだと思います。

今年度は会員限定での開催でしたが、今後は一般の方にもご参加して頂ける機会を作りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

館山 佳央



2020年現在で気温上昇は1.2度。  
最終的に1.5度以内に抑えることはできるのでしょうか？  
(出典：IPCC 第6次報告書)



EUでのリサイクル率の計算方法では、日本は先進国で最下位レベルに。  
(出典：国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター HP)



図1 日本とEU加盟国におけるごみのリサイクル率 (%)  
注) アイルランド、ギリシャ、キプロスは2017年の値、それ以外の国は2018年の値を用いています。

